



京都 YWCA

3 2025

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

「水俣・京都展」を終えて 世代を超えて共有する「水俣」問題への思い

京都 YWCA は昨年 12 月 7 日～ 22 日に開催された、認定 NPO 法人水俣フォーラム主催の「水俣・京都展」に協賛しました。京都 YWCA から参加したサポーターの思いをお伝えします。

私にとっての「水俣」の意味

私と水俣・京都展との最初の関わりは、1978 年にさかのぼります。同年 3 月に京都市美術館で開かれた「ユージン・スミス / アイリーン・スミス MINAMATA 写真展」をお手伝いしたことがきっかけです。私と同世代の胎児性水俣病患者さんをはじめ、患者さん以外にも多くの支援する人たちと出会いました。見かけは「がさくれ」でも「大切な命のメッセージ」として無農薬の甘夏みかんを、京都で注文を取り自宅まで届ける支援活動を行っていた時期もあります。それは春のたよりでもありましたが、今は患者さんをはじめ、支援者 2 世の方などが水俣のさまざまな農産物、海産物、加工品などの生産と販売に関わりながら、水俣発のメッセージを発信されています。

京都 YWCA では、2011 年の東京電力福島第 1 原発事故の数年後、「水俣の旅」を行いました。命が軽んじられ、多くの人や生きとし生けるものの命が奪われ、生きる場である海を汚され、差別、分断は今も続いています。しかも、その原因を起こした企業、国・行政は、本当の責任を取って対処しているとは到底思えず、それはいまだに続いています。自分自身もそれを許している生活者の一人だと、水俣病・原発に共通したものを感じるの、私だけではないと感じています。

関西では 25 年ぶりの開催に際し、若い世代にぜひ伝えたいという思いがありました。京都 YWCA は協賛団体として参加し、複数の会員や社会問題に関心の深い同志社中学校の生徒たちも展示会場での役割や講演会に関わりました。

(弘中 奈都子)

サポーター会議参加を通して初めて知ったこと

2024 年 4 月、平和・環境活動委員会の議題の中に「水俣・京都展への協賛について」がありました。それまで私にとって水俣病は「教科書でみた公害」で、恥ずかしいことに詳しい背景などは知りませんでした。京都 YWCA として協賛が決まり 6 月に行われた第 1 回サポーター会議に出席したとき

は、「私のように無知な者がこの場にいてよいのか」と感じたことを覚えています。

毎月行われたサポーター会議には、ボランティア希望の方、学校関係の方、ご友人とともに来られた方などがおられました。会議では展示などの情報共有に加え、患者さんや他の出席者のお話を聞く機会が何度ありました。

みなさんのお話に共通していた想いがあります。それは「この過ちを繰り返してはいけない」ということです。水俣病は人間が引き起こした「事件」であり、その根底には「利益のためなら少しの被害はいとわない」という考え方があります。過ちを繰り返さないためには、今の日本社会でも見られるこの考え方を変えていかなければなりません。

「被害に遭いながらも事実を明るみにしようと闘った方々のおかげで今の私たちの安全がある。私たちの細胞とこの事件は無関係ではない。」環境活動家のアイリーン・M・スミスさんがおっしゃっていたことです。

私はこの度の協賛を通して、水俣病を少し自分事として捉えられるようになったように感じます。認定 NPO 法人水俣フォーラムのみなさま、お話を聞かせてくださった患者さん、関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。

(古川 由布子)



水俣・京都展の入り口



会場のみやこめっせ前広場に大きな看板がだされた

2.11 集会 国連女性差別撤廃委員会の日本審査にマイノリティ女性の立場で参加して

2月11日は日本書紀の神話に基づき建国記念日とされているが、毎年京都YWCAでは平和について考える集会を開いている。今年は、昨年10月に国連の女性差別撤廃委員会（CEDAW）が女性の権利保障のための日本政府の取り組みについて行った審査に、在日コリアン女性の立場から参加されたヒューライツ大阪事務局長、「アプロ・未来を創造する在日コリアン女性ネットワーク」の朴君愛（ぱく くね）さんからお話を伺った。

在日3世として大阪で育った朴さんは、差別の中、18歳まで本名を名乗れなかった。40代になって在日コリアン女性グループの活動に参加されるようになり、在日であり女性である自らの「複数のマイノリティ性」と複合差別（差別の交差性）に気付くようになった。CEDAWのマイノリティ女性に関する日本政府への勧告を知り、それを学ぶ集会で部落女性、アイヌ女性、障害女性たちとの出会いもあった。しかし、勧告に対する日本政府の対応は鈍い。

1985年の日本政府の女性差別撤廃条約締結によって、国籍法の改正、男女雇用機会均等法、家庭科の男女共修が実現した意味は大きい。今回の審査に向けては朴さん

たちを含め、さまざまな市民団体がNGOレポートを提出した。朴さんたちは、マイノリティ女性の実態調査、ヘイトクライムの防止・救済のための仕組みの整備などを求めている。

朴さんは子ども時代に自分の家の料理を誇れなかった無念さを語られたが、最近、民族の食文化を守ってきた女性たちのスキルと思いを次の世代に繋ぐ「在日一女性たちが紡いだ食と生活」プロジェクトを立ち上げられた。活動によってエンパワーされたと語られた朴さんは、重いテーマでありながら終始いきいきと語られた。マイノリティ女性の人権の問題は全ての女性の人権の問題に繋がると感じた。CEDAWの日本審査は <https://www.jnnc.jp/> から視聴できる。

（上村 兪巳子）



朴君愛さんとお話を聴く参加者たち

オープン10周年 シリーズ「うららかふえ」こぼれ話⑥

🍵 うららかふえでの「修行」は続く 🍵

うららかふえは去年10周年を迎えた。10年分のFacebookを見直す作業を通して、「人と人が出会い、何かを共同していく力」にただただ圧倒された。ボランティアを始めて8年になるが、多くの方々と出会い交わした会話、数々の料理、においやその日の気温に至るまで、五感をフル回転させた状態でさまざまな思い出が蘇ってきた。「多世代・多文化」の言葉そのままに、作る料理も、関わるスタッフの年齢の幅も、お客様もバラエティーに富んでいる。

食を通じて、さまざまな人々が行き交う交差点のような「うららかふえ」だが、いつも担い手不足には頭を悩ませている。主担当者は、献立作成、買い物、食数の決定、会計など、大変なことも多いが、自己決定の自由がある。私が材料の中に豆類を入れることが多いのは、母が送ってくれる豆を使うと材料費の節約になるというのがきっかけだったが、今では、豆類の奥深さにはまっている。献立は、家庭で作る「おうちごはん」が中心だが、30人分となる

となかなか上手くいかない。

所属している手話サークルでも、情報発信の意味もあり月に一度ランチを担当しているが、料理の提供で精一杯のことが多い。いつも笑顔で「ごちそうさま」と言って下さるお客様には、心から感謝している。実は、私は、かふえでのボランティアを密かに「修行」と呼んでいるのだが、「楽しむ」をキーワードに、うららかふえでの「修行」をもう少し続けたいと考えている。

（御前 明美）



ファイルにはオープン時からこれまで提供したランチの写真が収められている

活動グループ紹介シリーズ④「手話かふえ」 手話かふえは手話で語り合う居心地の良い場所です

京都 YWCA の手話かふえは 2018 年 10 月 10 日にスタートし、月に 1 回、第 4 土曜日の午後 2 時から 3 時半まで開催しています。

6 年が経過し、参加者の顔ぶれも変わりました。さまざまな事情でやめていく人もあれば、新しく入ってくる人もいます。また、参加者の中には他の手話サークルに通っている人、手話奉仕員養成講座を受けている人もいます。年齢も若い方から高齢の方まで、さながら大きな家族のようです。

最近では前回の単語の復習をして、その後は毎回テーマを決めて、今まで学んだ手話を使い、わからないところは教えてもらいながらグループで発表しています。11 月のテーマは「今年の漢字」「私の漢字」でした。「今年の漢字」は毎年清水寺で発表される漢字を予想してもらい、「私の漢字」は去年、自分にとってどんな年だったのか漢字一字で表してもらい、その説明をしてもらいました。すると、その人の 1 年の様子がわかったり、その人の「人となり」がわかったりして、なかなか面白いです。発表

に対してほかの参加者からの質問もあり、手話を学ぶだけでなく、参加者同士の交流も深まっています。

また、その時々聴覚障害者に関わるニュースやイベントを紹介しています。今年はデフリンピック（国際ろう者スポーツ委員会が 4 年に 1 回開催）が日本で開催されるので、今まで以上に手話に関心を持つ人が増えると思います。この機会にあなたも是非手話に触れてみませんか。ご連絡お待ちしております。（三ツ谷 直子）



ある日の手話かふえ風景



「お餅を楽しむ会」 を開きました



待ちに待ったこの日（1 月 4 日）。参加者には「1 年で一番楽しみにしている」という人も。海苔、しょうゆ、きなこ、ぜんざい。初の試みにもみじおろしと雪見大福。参加者は、子ども・若者の居場所「Yここ Kitchen」参加者、高齢者住宅サラームの入居者、あじさい寮の留学生、普段お世話になっている方も。とても柔らかく温かいうちにいただくお餅は格別です。突然始まったカルタ大会も盛り上がりしました。準備してくださるのは、日頃からお世話になっているご夫妻（うららかふえの美味しいお米はこのご夫妻から購入しています）。寄贈いただいたぜんざい、みかん、干し柿、チョコレート。談笑する席、静かに過ごす席、それぞれの過ごし方で美味しいものをいただく。来年もこの時間、この場が持てますように。（高橋 夏梨）



お餅をつくる機械に興味津々の留学生



盛り上がったカルタ大会

京都 YWCA で職員として過ごした 2 年間 —2025 年 1 月で退職した職員からのメッセージ—

京都 YWCA での働きは、社会課題の根深さに圧倒されると同時に、その変革に向けた会員と職員の重層的な運動に私自身が支えられた 2 年でした。

特に関わりの深かった自立援助ホーム「カルーナ」、子ども・若者居場所事業「Yここ Kitchen」では、若者との関わりを通して彼らの生い立ちを知ること、彼らが今抱えている生きづらさにそれが大きく影響していることを実感しました。社会的には、個人の努力が足りないなどの「今」しか見ていない言葉が飛び交いますが、その背景をないものとして判断するあり方は、社会構造的な不平等そのものだとも痛感させられました。

京都での働きは終わりますが、次の横浜 YWCA でも変わらずに社会変革の運動を続けますので、これからも世帯も場所も超えて皆さんと協働し続けられたと思います。多くの支えに感謝いたします。

（藤原 聖帆）



京都 YWCA の運営委員会より感謝の花束を贈りました
（左から 2 番目が藤原さん）

ご協力ありがとうございました

2024年12月1日から2025年1月31日までの寄付者一覧(敬称略、順不同)

各指定寄付

*法人支援

日本キリスト教団京都上賀茂教会、
池上信子、筒井奈都子、横江美佐子、
弘中奈都子、今井貴美江、篠田茜、
中川美佳子、神門佐千子、安藤いづみ、
同志社女子高等学校、
同志社女子大学宗教部、匿名 1 名

*親・子育て支援活動委員会

親子ライブラリー、有田孝子、
室紀子

*APT

宇山進、岡佑里子、北垣由民子、
上内英子、同志社中学校、
ヘイナ啓子、神門佐千子、匿名 2 名

*活動総務

齋藤大輔

*活動グループ

手話サークル

*多文化共生委員会

アシュラムセンター神戸イエス団教会、
有田孝子、日本キリスト教団室町教会教会学校、
神門佐千子、田中康司、織田雪江

*広報委員会

株式会社正美堂、税理士法人有田事務所

*ふれあいの「居場所」事業部委員会

若者就職支援まかない募金、
親子ライブラリー、有田孝子、
平野富希、御前明美、高山亨、
平野裕之、齋藤大輔、吉澤道子、
大賀佐代子、重谷秀星、井上里佳

*平和・環境活動委員会

今井貴美江

*保育園

平野富希

*ユース委員会

有田孝子

*自立援助ホーム「カルーナ」

有田孝子、神岡茂子、横江美佐子、
榎本愛美、平野富希、岡佑里子、
京都府更生保護女性連盟「愛の図書」、
神門佐千子、小杉總子、伊東真喜子、
高山亨、定本ゆきこ、永井潤子、
伊原千品、今村武廣、西文子、
島崎明子、重谷秀星、聖約翰オリーブの会、
井上里佳、竹之下雅代、宮川道子、
桃山基督教会婦人会、水野篤夫、
日本キリスト教団京北教会、岩崎明生、
齋藤大輔、匿名 2 名

*賛助費

松永公子、天野博

- ★テレビで見かけた話題の文具
- ★行事で使うノベルティ商品
- ★プレゼントに適した商品

事務機・事務用品の事ならなんでもご相談下さい。



株式会社 正美堂

京都市中京区壬生坊城町25番地
TEL : 075-841-4371 FAX : 075-811-6590

URL : <http://www.syobido.jp/>

阪急電車京都線「大宮駅」下車
西出口から出て、四條通り沿いに徒歩4分(北側)

お詫びと訂正

2025年1月号2ページにお名前のお誤りがありました。

誤：山村一代 様
正：山村茂代 様
お詫びをし訂正致します。

今後のプログラム

◎公開講座「対話と尊重の文化を作る～修復的対話実践～」

- 日 時：3月15日(土) 13:30～16:30
- 場 所：京都 YWCA および zoom
- 講 師：毛利真弓さん(同志社大学心理学部准教授)
- 共 催：関西セミナーハウス・カルーナ委員会

◎ Rise Up ! ワークショップ「気候変動×人権×ジェンダー」

- 日 時：3月22日(土) 15:00～17:00
- 場 所：zoom
- 対 象：テーマに関心のある方どなたでも
- 参加費：1000円、30歳以下無料
- 主 催：ユース委員会

◎ガジュマルの樹「春休みデayout」

命を守る防災について、体験しながら楽しく学ぼう！

- 日 時：3月26日(水) 9:30～16:30
- 対 象：新小学1年生～6年生
- 参加費：2,800円
- 主 催：親・子育て支援活動委員会

◎世界YWCAデー「知って欲しい！YWCAが大切にすること～セーフスペース・つながり・自分らしさ～」

YWCA ってなに？ YWCA が大切にしてきたこと、地域・社会に広げていきたいことを皆さんとシェアします。

- 日 時：4月26日(土) 13:30～15:30
- 場 所：京都 YWCA、大阪 YWCA、zoom
- 対 象：YWCA に関係している人、興味関心をお持ちの方はどなたでも
- 参加費：無料
- 主 催：京都 YWCA・大阪 YWCA 運営委員会

シェアカフェ(委託) 店長募集！

京都 YWCA のヴォーリズ建築サマリア館にある居場所食堂「うららかふえ」で、京都 YWCA が委託して月曜から土曜日の一日、ランチ提供を行ってくださる店長さんを募集します。

お料理を作るのが好きな方、仲間と何かしたい方、将来お店を持ちたい方など、ご応募をお待ちしております。詳細は二次元コードからご覧いただくか、事務所にお問い合わせください。



1・2月／理事会報告

- 1/4：子ども・若者の居場所事業 Y ここ Kitchen「お餅を楽しむ会」を開催(本誌 P3 参照)
- 1/11：自立援助ホーム「カルーナ」新年会を開催
- 1/25：入居者を対象に上京警察署署員による防犯の話(特殊詐欺・オレオレ詐欺等)を聞いた。
- 1月～2月：あじさい保育園で、乳児と幼児それぞれに保育参観と給食試食会を行った。
- 2/11：2.11 集会として「マイノリティ女性の立場で女性差別撤廃委員会審査(2024年10月)に参加して」を開催(本誌 P2 参照)
- 2/22：「ピーター・バラカン DJ ライブ #13 映画・音楽」を日本聖公会聖アグネス教会にて開催
- うららかふえのランチを担当する人手不足などに対処するための居場所事業検討チームを立ち上げた。

KYOTO YWCA No.585 2025年3月号(3月1日発行)

発行人：山中あかね
発行所：公益財団法人京都 YWCA
〒602-8019
京都市上京区室町通水上上近衛町44

電 話：(075)431-0351
F A X：(075)431-0352
e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp
H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566
口座名義：(公財)京都 YWCA
定 価：1部50円
発 行：奇数月1日発行